

第4回 選挙区及び定数に関する在り方調査会 概要

日 時：令和2年1月30日（木）14時00分～16時00分
場 所：都道府県会館4階407会議室（東京都千代田区平河町2-6-3）
出席委員：（7名）金井利之座長、磯崎初仁委員、岩崎美紀子委員、大橋正春委員、
加藤一彦委員、高橋秀禎委員、原田大樹委員
出席者：中嶋年規議長、北川裕之副議長
（事務局）湯浅真子事務局長、畑中一宝次長、枡屋武企画法務課長、
袖岡静馬政策法務監、長谷川智史主任、川合将之主任
傍聴者：15名

1 第2回現地調査の報告について

資料に基づき、事務局から現地調査の概要について報告を行った後、委員間で意見交換がされた。

委員からは主に次のような趣旨の発言があった。

- ・南部地域と比較して、北部地域においては、県の補完や支援の役割の必要性・緊急性は低いと感じた。
- ・南部地域は人口減少やそれに伴う産業の空洞化など共通した課題を有していると感じたが、北部地域はそれぞれ多様な課題を有していると感じた。
- ・南部地域と北部地域で、県に対する認識が異なるように感じた。南部地域は、県にしっかり支援してもらっているという認識で、北部地域は、県の財政上の問題もあるが、なかなか支援が回ってきていないという認識をもっていたように感じた。
- ・今後の課題として、外国人労働者への対応など、1つの自治体では対応が困難で、県全体で取り組んでいかないといけない課題が生じてくるのであろうと感じた。

2 調査

中間取りまとめ骨子について

はじめに事務局から、資料に基づき中間取りまとめ骨子について、説明を行った後、委員間で協議が行われた。

委員からは、主に次のような趣旨の発言があった。

- ・県議会の在り方や役割を検討する前に、県の在り方や役割がどういったもので、今後どのように変わっていくのかを示していく必要があるのではな

いか。

- ・今後の県の在り方や役割まで考えていくとなると、調査会の議論の範囲があまりに広くなりすぎる、また調査会で議論できる範囲ではないのではないか。
- ・今後の県の在り方や役割については、県で策定された総合戦略等で一定の方向性が示されているのではないか。
- ・多元的な代表性が重要であるということは、一定共通認識としてあるのではないか。
- ・多元的な代表性を選挙制度だけで確保しようとするのは困難なのではないか。
- ・多元的な代表性といったときには、議会の議決が多様な意見を反映しながらされているのかということではないのか。必ずしも、多様な議員の選出がされているということではないのではないか。
- ・多元的な代表性というのは、構造的な少数派への配慮を考えるということになるのではないか。それをどこまで選挙制度の中で保障していくのかということではないか。また、選挙制度の外で、それを保障・補完することもあり得るのではないか。
- ・今回示されたものは、中間取りまとめというよりは、論点整理に留まる内容ではないか。そうであるならば、論点整理として提示した方が良くのではないか。
- ・8月に最終報告を予定しているのであれば、そのスケジュールを見越して、もう少し方向性を絞っていくことも考えてはどうか。
- ・現状では、中間取りまとめとして、体系立てて文章化したものをまとめることは困難ではないか。場合によっては、そうしたのではなく、論点を整理してまとめるということもあり得るのではないか。
- ・中間とりまとめとしては、何らかの方向性を出すというより、論点を提示して、課題を共有するという事としてはどうか。

3 その他

次回の調査会については、2月18日（火）10時から都道府県会館で開催する予定であることが報告された。